

受け継がれる「門戸開放」の精神 社会貢献・男女共同参画への積極的な取り組み

東北大学「科学者の卵 養成講座」開催

2009年6月に開設した東北大学「科学者の卵 養成講座（基礎コース70名、発展コース30名）」。2010年は6月12日に開校式を開催し、講義が始まった。この講座は、JSTの「未来の科学者養成講座」事業の一環として毎年全国の高校生を対象に行われている。全国約2,000校に募集案内を送付。2010年度も278名の応募者があり、選抜された100名の高校生が参加する。生徒たちは毎月1回、大学に集まり、1日2コマの講義を受講。理学、工学、生命科学、医学、農学、環境科学といった幅広い分野で最先端の研究に触れ、課題に取り組む。大学の研究施設の見学や、将来展望を知るキャリア教育の機会も設けられており、参加した生徒たちや保護者の方からも高い関心を集めている。



また、2010年度からは、2009年度の発展コース受講生が、特定の教員と一年間研究を行うという「エクステンドコース」も開始され、より、発展した研究を深く展開することを予定している。

小・中学生のための「ひらめき☆ときめきサイエンス」～ようこそ大学の研究室へ～

大学で行っている科学研究費の研究成果を、小学校5・6年生、中学生、高校生が見て・聞いて・触れることで、学術と日常生活の関わり、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラム。全国各地の大学でさまざまなテーマにより企画・実施され、本学においても2009年度は5つのプログラムが実施された。

■2009年7月30日・31日(両日とも同内容)

「**地中レーダ：地雷を捜す方法**」 東北アジア研究センター 佐藤 源之教授

アフガニスタン、カンボジアなどでの地雷除去の現状を紹介。電磁波を利用したレーダで地雷を検知する新しいセンサ(ALIS)の動作を解説し、電波や電気の計測器に触れてもらった。次に実験用大型土槽でALISを動かし、模擬地雷を捜す体験をしてもらった。



ALISによる模擬地雷を捜す体験

■2009年8月8日

「**東北大学サイエンス・エンジェルと感じる昆虫機能の不思議**」 薬学研究科 倉田 祥一郎教授

地球上の動物種の8割以上は昆虫であるといわれており、個体数では99%を昆虫が占めるという試算もあるほど。昆虫の繁栄を支える形作りと、感染症を防ぐ優れた機能について、東北大学の自然科学系大学院に所属する女子学生であるサイエンス・エンジェルと共に、その不思議を探った。

■2009年10月3日

「**プラズマを体験しよう -私たちのエネルギーについて-**」

工学研究科 笹尾 眞實子教授

プラズマ技術の現状に関する講義と、実際にそれに関わる研究室の紹介、また実際のプラズマ生成実験などを通じ身の回りにあるプラズマというものがどのようなものか、またこれを使ってどのようなことが出来るのかを体験してもらった。

■2009年10月12日・13日(両日とも同内容)

「**言葉・心・コミュニケーション**」

情報科学研究科 邑本 俊亮准教授

私たちが使用している言語はあいまいで不十分な側面があること、それにもかかわらず、私たちが他者とコミュニケーションをとれるのは、人間の「心」のすぐれた働きがあることを、さまざまな具体例やデモンストレーションを通して伝えた。

■2010年1月7日

「**泡でたたいて強くする**」 工学研究科 祖山 均教授

キャピテーションという特別な泡が潰れるときの衝撃力で金属をたたくことで、金属が強くなる理由を学ぶとともに、帰宅後も実験できるように工夫した「泡発生器」を、受講生が自分で組み立てた。実際に研究で使用している装置でアルミニウムを加工したり、X線回折装置を用いてそれらを評価することで、研究の現場を実感してもらった。



祖山先生による実験などを交えた講演

東北大学第8回男女共同参画シンポジウム

男女共同参画社会基本法が制定されて10年が経過した。開学時に「門戸開放」を掲げ、国内で初めて女子の入学を認めた東北大学では、2001年の男女共同参画委員会設置以来、男女共同参画奨励賞、女性研究者支援プログラムなど積極的な取り組みを続けてきた。

2002年からはシンポジウムを毎年開催、2009年度は、11月28日に東北大学片平さくらホールで開催され、沢柳賞の授賞式や講演、報告・パネルディスカッションなどが活発に行われた。

沢柳賞の対象は研究部門、活動部門、プロジェクト部門の3部門からなり、男女共同参画に関連する研究や活動の奨励、男女共同参画社会実現に向けての積極的な提言や企画を重視している。第7回沢柳賞(研究部門)は、「離婚後の養育費政策と女性の地位に関する研究 - 国家による家族介入的政策の両義性」で文学研究科の下東美幸准教授が受賞。「離婚後の母子世帯に対する養育費制度の変遷を中心に家族福祉政策を広く対象とし、アメリカやイギリスと対比して、日本の現状と問題点を描き出す視野の広い研究である」と講評された。

第2部では東北大学男女共同参画の現状～本音で語る課題と展望～と題して、法学研究科・辻村みよ子教授の全体報告の後、東北大学における男女共同参画の実態と問題点についてパネルディスカッションを行い、フロアからの意見を交えて本音の討議が行われた。

参加者からは「『すそ野を広げる』『ライフワークバランス』などの観点は、性別を問わず個人の能力を発揮するための環境作りにつながるものと思う」といった意見や、「大学が男女共同参画を理論的にも実践的にも社会をリードしてほしい」という希望も出された。



第8回東北大学 男女共同参画シンポジウム
「男女共同参画の現状～本音で語る課題と展望～」

杜の都女性研究者ハードリング支援事業 ～次なる行動に向けて～

「杜の都女性研究者ハードリング支援事業」は、平成18年度より3年間、女性科学者のキャリアパス形成に障害となる様々なハードルを乗り越えるための支援と、諸制度の整備を実施してきた。その結果、女性教員増員のための制度創設と学内規定の改正や教員の意識改革が進み、大学運営組織への女性の参画が進展するなど、成果を得られた。この成果をさらに発展させるため、平成21年度からは「杜の都ジャンプアップ事業for2013」も実施。「自立し、共生し、未来を育み、サイエンスを拓く杜の都女性研究者」の育成を目指し、女性教員比率の低い理工農学系の分野において5年間で30名の新規採用を目標に取り組んでいる。また、ハードリング支援事業も本学独自の事業として以下のとおり継続されており、さらなる支援の充実で男女共同参画社会の実現を目指している。

■育児・介護支援プログラム

女性研究者のキャリアパスにおいて高いハードルのひとつは、研究生活と出産と育児・介護との両立。育児・介護支援プログラムでは、育児・介護支援のために男女共同参画委員会と連携し、制度の検討、試行および実施を行ってきた。その結果、公募により、育児中の研究者への技術・事務補佐員の派遣、ベビーシッター経費の支援が行えるようになった。また、本事業を契機として、男女共同参画委員会との連携により、短時間勤務制度、育休取得に伴う任期延長に係る制度改革が進み、女性研究者が能力を発揮できる環境を実現している。

■環境整備プログラム

女性研究者が研究を継続するためには、さまざまな環境整備が必要。平成13年度より利用地区を限定して運営されてきた東北大学病院内の病児保育施設について、本事業で人員の拡充を図り、平成18年度からは全学的に利用できるようになった。また、自然科学系の全ての研究科と研究所に女性用休憩室を設けるなど、環境整備を推進している。

■次世代支援プログラム

東北大学の自然科学系大学院に所属する女子学生によって組織される「サイエンス・エンジェル」。次世代の女性研究者の育成や、理系進路選択啓発のために創設された。本学の自然科学部局に在籍する女子大学院生が、出張セミナーや科学イベントなどを通じ、科学の魅力や研究の楽しさをわかりやすく伝えている。



サイエンス・エンジェルの活動の様子